

福島原子力発電所事故を受けて

2011年4月18日

インタークリ(INTERCLI)「マンシュ県原子力施設安全」 作業部会設立



目的

- 県内3箇所の原子カサイトで認識された安全レベルを精緻かつ横断的に分析して、 将来の予測診断を明確にする
- 原子力安全規制当局の監査と、3つの地方情報委員会の作業と分析をクロスチェック する
- 日本の大震災の経験に照らしてマンシュ県の施設の弱点を特定する
- グローバルな取り組みに光明をもたらすため地方の取り組みを利用(地方で行動をおこす/グローバルに考える)
- 3つの地方情報委員会の新しい統治および任務強化のため提案を作成する



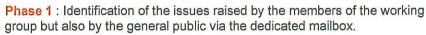
取り組みへの二つの課題 下記に関連する論理を両立する

- 社会が最重要課題の中心に原子力安全を位置づける意義を自覚
- 最終的には「白書」*を作成することができるような、複合的な方法による、長期間に わたる取り組みの必要性

*訳者註 ここでいわれている白書とは特定のテーマについてステークホルダーが決定をくだす判断材料となるような全ての情報を盛り込んだ資料集



Methodology - 5 phases



6 meetings - 184 questions

Validation questions in AG - communication to the public



2nd phase: crosschecking of the questions raised by the GT with Complementary Evaluations of Safety (ECS) and inspections sites

→ Writing and editing online paper with answers first



Phase 3: 18 hearings (including three operators, ASN, IRSN, CHSCT of three sites, companies consular, French State, National Defense ...)

Writing the final paper with answers and discrepancies



Cude LA MANCHE



方法論 -5段階

第一段階:作業部会のメンバー、および専用電子メールを通して住民が提起した質問の調査

6会合 - 184質問

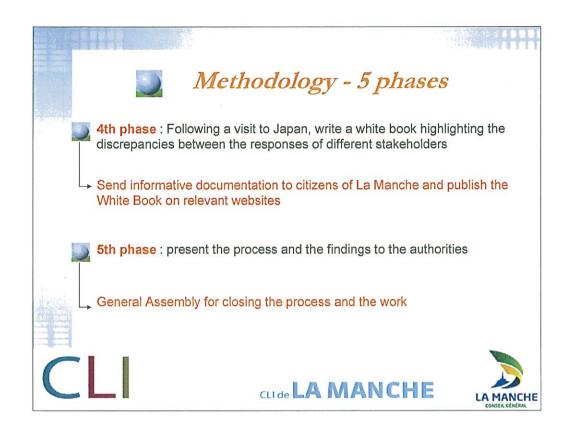
総会で質問の認証 - 住民に伝達

第二段階:GTが提起した質問を安全補足評価(ECS)及びサイトで実施された検査に 照らしてクロスチェック

最初の回答つき作業資料の作成、およびインターネットサイトへの掲載

第三段階:18 ヒヤリング (うち、3事業者、原子力安全規制当局、放射線防護・原子力安全研究所、3サイトの衛生・安全・労働条件委員会、職人組合、国、国防...)

回答、ならびに違いを付帯した最終作業資料の作成



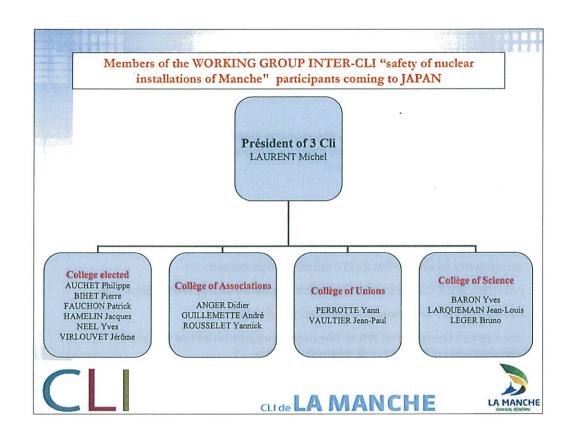
方法論 -5段階

第四段階:日本への視察、その後、様々な関係者の回答で明確になった違いを盛り込んだ白書の作成

マンシュ県住民に資料送付、その後、白書をインターネットサイトに掲載

第五段階: 当局に対する取り組み推進

取り組み終了の総会



日本視察に参加したマンシュ県「施設安全」に関するインタークリ作業部会のメンバー

3つの地方情報委員会委員長 ロラン・ミシェル

議員 市民団体 労働組合 科学者
オシェ・フィリップ アンジェ・ディディエ ペロット・ヤン バロン・イヴ
ビエ・ピエール ギュメット・アンドレ ヴォルティエ・ジャン=ポールラルクマン・ジャン=
ルイ
フォーション・パトリック ルスレ・ヤニック レジェ・ブリュ
ノ
アムラン・ジャック
ニール・イヴ
ヴィルヴェ・ジェローム



Financing and schedule

Financing:

- Specific budget released by the General Council of la Manche and the ASN to finance the work of GT InterCLI (including a charged of mission): about € 120,000 over two years.

Schedule:

- May-November 2011 GT meetings, work on thematic
- November 30, 2011 AG inter-CLI validation themes
- January to December 2012 GT meetings + hearings
- February 2013 AG interCLI validation summary of the White Book
- April 2013 GT members travelling to Fukushima
- June 2013 issue of the White Paper and promotion of the work performed with national & international bodies



CLI de LA MANCHE



財政•日程

財政:

インタークリ作業部会(含調査役ポスト)の作業に出資されるため、マンシュ県議会、および原子力安全規制当局から捻出された特別予算ー二年間で約12万ユーロ

日程:

- 2011年5月~11月 作業部会の会合、テーマ別課題の検討

- 2011年11月30日 インタークリ総会 テーマ別課題の承認

- 2012年1月~12月 作業部会の会合 + ヒヤリング

- 2013年2月 インタークリ総会 白書の要約承認

- 2013年4月 作業部会メンバー福島視察

- 2013年6月 白書刊行、フランス内外機関に実施作業の理解促進



Communication tools

Numéric tools :

- E-letter
- dedicated websites
- a dedicated mail box for citizens to ask questions to WG
- a platform for online work

Multimedias:

- a campaign of 224 radio spots
- radio and television interviews via partnership agreements
- support of a team of journalists to visit Japan

Paper tools:

- newsletter distributed to each of the 227,000 homes of the department, alongside the town halls and public administrations.
- a summary document updated on a weekly basis to download on the site.
- advertorial articles informing of the progress of the approach, to be publicised in "Ia Manche magazine", which is distributed to all homes of the department.







伝達手段

デジタルな手段

- -電子レター
- 専用ウエブサイト
- 作業部会に対する市民からの質問を受け付ける専用メールボックス
- オンラインプラットフォーム

マルチメディア

- ラジオでの224回のスポット宣伝キャンペーン
- パートナーシップ協定によるラジオ・テレビインタビュー
- 日本視察のための記者団の費用負担

紙媒体

- 県内22万7千全世帯、市町村役場、および公共機関に情報誌を配布
- インターネットサイト上にダウンロード可能な週間最新総括資料を掲載
- 取り組みに関する現況を知らせるためマンシュ県の全世帯に配布される県議会 誌に記事広告的な記事を掲載

